

「いつ起こるか分からない、しかし、いつかは必ず起こる」それが自然災害だ。

地震や台風を防ぐことはできない。しかし、「備え」があれば尊い命を守ったり、被害を最小限に食い止めたりすることができる。普段から災害時の行動や対応について家族で話し合おう。特に平日の昼間は、それぞれ違う場所で被災することが多い。「どこに避難するか」「どこで落ち合うか」なども確認しておこう。

小さい子供のいる家庭では、地区内の安全な場所と危険な箇所を教えよう。普段通っている道路も、災害時にはがけ崩れなどで通行できなくなる場合がある。複数の避

難経路を実際に歩いて教えることが大事だ。

大きな災害が起きると、電話会話が発信を規制することがある。安否確認が殺到して交換機がパンク状態になるためだ。自宅に避難先などを書いた張り紙をして互いの安否を確認するなど、家族で連絡を取り合う方法を決めておこう。被災地から離れた親戚や友人などを緊急連絡先にして、確認し合う方法もある。

非常持ち出し品の準備も欠かさない。飲料水、非常食品、懐中電灯、ラジオ、応急医薬品などを非常持ち出し袋に入れたり、リュックサックに詰めたりして、定期的にチェックしよう。

●家庭の防災教育

語り継ぎ、話し合う

家庭で、隣近所で、職場で、地域で

いざという時、何をすればよいのかを話し合おう。

東日本大震災の被災体験を語り継ぎ、

それを教訓に災害時の行動や備えについて

家族で話し合った市内滝沢の蜂谷忠一さん家族を取材した。



防災マップを囲み、避難場所や避難経路を確認する蜂谷さん家族



Profile 滝沢で農業を営む蜂谷忠一さん(70)。妻とみ子さん(66)、青果市場で働く長男寿行さん(40)、介護老人保健施設に勤務する長男妻の暁さん(38)、滝沢小に通う孫の千寿君(5年)と結壁さん(3年)の6人家族

3年前の3月11日に地震が起きたときはどこにいましたか。強い揺れを感じ、何をしましたか。

千寿 教室にいました。先生の指示で、机の下に隠れました。その後、全校で校庭に避難しました。

寿行 金ヶ崎町の会社事務所で被災しました。机の上にあった書類が床に落ち始めたので、同僚と駐車場に避難しました。

暁 勤務する平泉町の介護老人保健施設です。まず、利用者を玄関まで避難させました。停電でエレベーターが止まったので、2階から30人を車椅子ごと運びました。玄関で揺れが収まるのを待ちました。

結壁 友達の家に行きました。友達とみ子 おじいさんと家にいました。私はこたつにもぐりました。揺れが収まってから孫たちを迎えに行きました。怖かったですね。

千寿・結壁 うん。

自宅に被害はありましたか。

とみ子 3月11日の地震では、家の壁が崩れました。物が倒れたり、散乱したりすることはありませんでした。4月7日の余震では、障子やふすまが外れました。停電で片付けが大変でした。

忠一 この辺りは、地盤がしっかりしています。太陽光パネルが割れ

たとか、水道管が破裂したという話は聞きましたが、建物倒壊などの大きな被害はありませんでした。

学校や職場で震災の影響はありましたか。

寿行 卒業式や入学式は予定通り行われました。結壁はちょうど卒園と入学でした。停電中で、どちらも照明や暖房器具が使えない中で式が行われました。

とみ子 地震が理由で休校になることもありませんでしたね。

寿行 道路被害や燃料不足で商品の入荷が滞りました。通勤も大変でした。燃料を節約するために同僚と途中で待ち合わせ、乗り合いで行きました。ガソリンが手に入った時は、みんな5リットルずつ分け合いました。

暁 施設の職員は、24時間体制で利用者をサポートしました。停電、断水の中でケアは壮絶でした。

震災直後、一番苦労したことは何ですか。

忠一 当時、民生委員だった私は、地区内の安否確認をしました。9区は106世帯です。一人暮らしや高齢者だけの世帯もあるので心配しました。崖崩れで道路は通れない、ガソリンがなくて車で回れないなど苦労しました。スタンドに並んでも、ガソリンを買

えないこともありました。

とみ子 農家なので、食料には困りませんでした。幸い、ガスに被害はなかったので調理もできました。ただ、断水で水が不足しましたね。反射式石油ストーブで暖をとって、ろうそくで明かりをとりました。

寿行 水道も電気も復旧まで1週間ほどかかりました。普段のありがたさが身に染みました。

暁 携帯電話やパソコンなど通信機器も使えなくて、本当に不便でした。

家族に変化はありましたか。

暁 子供たちは、地震が起きる度に津波を心配しています。きつと、テレビの映像が頭から離れないでしょう。

訓練は行っていますか。

千寿 毎月、小学校で地震や火事などの避難訓練をしています。

暁 3月11日には、予告なしで訓練が行われたよね。

千寿 うん。地震の避難訓練だった。授業中、「大きな地震が来るので、机の下に隠れてください」という放送があり、急いで机の下にもぐりました。怖がって泣いている人もいました。

暁 職場では年2回、避難訓練をしています。普段も非常時も「利

用者の安全確保が最優先」です。

災害時は、多かれ少なかれ、みんなパニックになります。冷静な判断と適切な行動ができるように訓練を重ねることが大事ですね。

災害時の行動や対応などを、家族で話し合っていますか。

寿行 震災直後に避難場所や避難経路について話し合いました。でも、時間がたつと、当時の記憶や災害に対する意識が薄れ、最近では話しをしていませんでした。

暁 結壁は幼かったのですが、「地震が怖かったことは覚えていても、当時の記憶はほとんどありません。年1回でも、当手を振り返ったり、災害時の行動について話し合ったりする必要があると思っています。

とみ子 地震直後、孫たちは、小さな揺れにも過敏でした。ところが今は、地震に慣れて怖がることなくあります。でも、それはよくありません。小さな揺れでも、絶対に油断してはならないことを教えたいです。

忠一 自主防災組織ができて、防災資機材が整備されたので、ぜひ訓練をしたいです。災害時には、わが家だけでなく、隣近所や地域の中で助け合っていくことが大事です。